

平成30年度 第70回冬休み良書推薦運動

読書感想文コンクール表彰式

平成31年3月2日(土)
サンセール盛岡

主催 岩手県良書推進協議会
協賛 岩手県学校生活協同組合
特別協賛 日本労働組合総連合会東京都連合会
後援 岩手県小学校長会
岩手県学校図書館協議会
岩手県PTA連合会

式次第

- 一 開式のことば
- 二 主催者あいさつ
- 三 賞状並びに記念品授与
- 四 審査報告
- 五 来賓祝辞
- 六 作品朗読
盛岡市立高松小学校 二年 瀧田 茉白
- 七 感想発表
宮古市立田老第三小学校 四年 舘崎 百奏
- 八 閉式のことば

審査員

大石善弘先生	近藤澄江先生	齋藤英明先生	畠山明美先生	藤村由美先生	田代五月先生	大淵奈実先生	永井臣之介先生	杉浦美香子先生
--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	---------	---------

平成30年度 第70回

冬休み良書推薦運動読書感想文コンクール

入賞者名簿

『は図書名』

〈最優秀賞〉

ビッグのようになりたいな 『恐竜トリケラトプス はじめてのたたかい』

雫石町立七ツ森小学校 一年 高橋 一嘉

ものにも気もちがあるんだね 『そらとぶこくばん』

盛岡市立高松小学校 二年 瀧田 茉莉白

おどろきの工夫 『いただきます凶鑑』

宮古市立山口小学校 三年 小野寺 朝妃

物に命が宿るってことは 『おじいちゃんとおかしな家』

宮古市立田老第三小学校 四年 館崎 百奏

自分を認めて自信を持つとう 『わたしの苦手なあの子』

盛岡市立仙北小学校 五年 田中 里奈

ホモ・サピエンスが逆転できた秘密は 『大逆転！奇跡の人類史』

宮古市立田老第三小学校 六年 畠山 大輝

〈岩手県小学校長会長賞〉

こくばんのきもち 『そらとぶこくばん』

盛岡市立厨川小学校 一年 小辻 佳歩

盲目の犬レディを読んで 『がんばれ！盲目の犬レディ』

軽米町立晴山小学校 三年 古館 和華

積み重ねることの大切さ 『わたしの苦手なあの子』

宮古市立山口小学校 五年 川戸 綾乃

〈岩手県学校図書館協議会長賞〉

あつたらいいな、空のいえ 『そらの100かいだてのいえ』

花巻市立宮野目小学校 一年 乙部 ひより

残念以上の努力 『ざんねんな偉人伝』

盛岡市立好摩小学校 四年 嶋 瞳

乗りこえるために必要なもの 『わたしの苦手なあの子』

宮古市立山口小学校 六年 里見 ゆうか

〈岩手県PTA連合会長賞〉

ゆう気を生みだす物 『恐竜トリケラトプス はじめてのたたかい』

軽米町立晴山小学校 二年 古館透和

ティラノサウルスの本当のすがたは 『ティラノサウルス』

宮古市立田老第三小学校 三年 佐々木友吾

ビルと、家族と、化石と 『笑う化石の謎』

宮古市立田老第三小学校 五年 佐々木大吾

〈特別賞〉(70回記念)

たんじょう日おめでとう 『スコットくんとポワロくん』

盛岡市立土淵小学校 一年 八重樫翔

ことばの向こうがわの思いを考えて 『チビまじよチャミーとほしのティアラ』

宮古市立田老第三小学校 二年 畠山芽依

おじいちゃんの生き方から学んだこと 『おじいちゃんとおかしな家』

洋野町立中野小学校 三年 粒来夏帆

レデイが教えてくれたこと 『がんばれ！盲目の犬レデイ』

大船渡市立大船渡北小学校 四年 松村黎

仲間を大切に

『キツネのパックス』 五年 中島朋海

心の修理屋

『わたしの苦手なあの子』 六年 赤坂祐生

〈優秀賞〉

二ねん一くみのこくばんさんへ 『そらとぶこくばん』 一年 米倉一心

隼石町立七ツ森小学校

マフィンおばさんのぱんやを読んで 『マフィンおばさんのぱんや』

花巻市立宮野目小学校 二年 吉田景都

いただきますの国への旅で 『いただきます図鑑』

宮古市立山口小学校 三年 箱石香乃

変わらない友情 『おじいちゃんとおかしな家』

盛岡市立城南小学校 四年 佐々木りな

勇氣 『わたしの苦手なあの子』

盛岡市立高松小学校 五年 菊地滯来

それぞれの愛情の形 『リーナのイケメンパパ』

滝沢市立鶉飼小学校 六年 柿崎千歳

〈入選〉

あまいかおりはやさしさのかおり 『マフィンおばさんのばんや』

宮古市立田老第三小学校 一年 館崎 央 奈

そらとぶこくばんをよんで 『そらとぶこくばん』

雫石町立七ツ森小学校 一年 米倉 大 心

ひつようとされること 『そらとぶこくばん』

洋野町立中野小学校 一年 粒 來 明 莉

ツピくんはがんばりや 『そのの100かいだてのいえ』

盛岡市立仙北小学校 二年 田 中 奏 太 朗

「そらとぶこくばん」を読んで 『そらとぶこくばん』

紫波町立古館小学校 二年 今 野 の 叶 な 想

かいたうじに教えてもらいたいこと 『おしりたんでい』

久慈市立大川目小学校 二年 田 中 祥 太 郎

思いやりの気持ちがあれば 『ポケットモンスター サン&ムーン サトシ編』

盛岡市立仙北小学校 三年 駒 林 皇 輝

かなえるまではあきらめない 『パパのファミリーズを救え！』

盛岡市立桜城小学校 三年 薄 衣 輪

「おじいちゃんとおかしな家」を読んで 『おじいちゃんとおかしな家』

大船渡市立日頃市小学校 四年 袖 野 の 心 桜

パパはイケメンなんだけど… 『リーナのイケメンパパ』

宮古市立田老第三小学校 五年 館 崎 心 葵

限りある命ならば 『命のダイヤル』

北上市立黒沢尻西小学校 六年 豊 卷 心 路

〈学校賞〉

宮古市立田老第三小学校

〈学級賞〉

・宮古市立宮古小学校 2年1組

・宮古市立宮古小学校 3年1組

・雫石町立七ツ森小学校 1年

・宮古市立田老第三小学校 5・6年

〈佳作〉

よかつたね、ツピくん

『そらの100かいだてのいえ』

花巻市立宮野目小学校

一年 中 寫 健 瑠

くいしんぼうのツピくんへ

『そらの100かいだてのいえ』

雫石町立七ツ森小学校

一年 高 木 明日香

大すきなマフィンおばさんとアノダッテ

『マフィンおばさんのぱんや』

二戸市立金田一小学校

一年 田 中 里 栞

そらとぶこくばんのたび

『そらとぶこくばん』

雫石町立七ツ森小学校

一年 上 和 野 惣 介

うれしいね、ポワロくん

『スコットくんとポワロくん』

宮古市立宮古小学校

二年 尾 張 まおみ

わたしも食べたい大きなパン

『マフィンおばさんのぱんや』

宮古市立崎山小学校

二年 向 口 湘 南

おうえんしてるよ、アノダッテ

『マフィンおばさんのぱんや』

宮古市立宮古小学校

二年 志 賀 航 大

うれしいねこくばん

『そらとぶこくばん』

宮古市立宮古小学校

二年 松 谷 桃子

二年一組のこくばん

『そらとぶこくばん』

宮古市立宮古小学校

二年 和 美 幸 希

わたしといろんなねこを読んで

『わたしといろんなねこ』

釜石市立小佐野小学校

三年 岩 間 美 空

コミュニケーションは大切

『がんばれ！盲目の犬レディ』

宮古市立千徳小学校

三年 島 山 太 耀

好ききらいをなくそう！

『いただきます図鑑』

宮古市立宮古小学校

三年 橋 本 未 羽

たくさんさんの偉人のことを知って

『さんねんな偉人伝』

盛岡市立山王小学校

四年 杉 江 め い

友情はすぐには生まれない

『わたしの苦手なあの子』

宮古市立山口小学校

五年 菊 池 萌 衣

二人の思いが通じて良かった

『わたしの苦手なあの子』

山田町立山田北小学校

六年 大 川 星 叶

ビッグのようになりたいな

宇石町立七ツ森小学校 一年

たかはしいちか

ぼくは、きょうりゅうが大すきです。きょうりゅうは、力がつよいし、大きくてかっこいいからです。ぼくもきょうりゅうのように、つよくなりたいたいとおもっています。だから、このおはなしには、どんなつよいきょうりゅうが出てくるのか、わくわくしてよみました。でも、よんでいくと、つよだけのきょうりゅうのおはなしではありませんでした。

しゅじんこうのトリケラトプス「ビッグ」は、ひとりぼっちです。つよいきょうりゅうにあっても、にげてばかりです。

「もつと、たたかえばいいのに。」

と、ぼくはふしぎにおもいました。そして、ビッグはにげているときにあしをけがしてしまいました。そんなとき、なかまのむれにビッグはであうことができたのです。

なかまは、とてもやさしいです。とくに女の子のきょうりゅう「ミニクレバー」は、

「やくそくをたべると、いためたあしによくきくわよ。」
 といって、おせわをしてくれました。ぼくもこのことばが

とつてもうれしくて、ところがぼかばかしました。ひとりぼっちだったビッグも、とてもうれしそうです。なかまができるって、ほんとうにうれしいことなのだとわかりました。

だから、ティラノサウルスがビッグのなかまたちをおそおうとしたとき、ビッグは、ゆうきを出して、おそろしいときにむかっていったのだとおもいます。じぶんのなかまをぜったいにまもるぞというつよいころがあつたのです。

ぼくは、力がつよい人がかっこいいなとおもっていました。でも、つよい人というのは、かぞくやなかまをまもつたり、ともだちのことをかんがえられたりする人がつよいのだとわかりました。ぼくもビッグのように、つよくて、やさしい人になりたいです。

(図書名『恐竜トリケラトプス はじめてのたたかい』)

〈講評〉

いちかさんは、自分の興味・関心からこの本を手にとり、この本を通して「かっこいい」とは何かを考え直したのです。本を読んで、自分の考えがふくらんだり広がったりしているいちかさんはどんな心が豊かになっていくことでしょう。具体的に登場人物の言葉を挙げ「このことばがとつてもうれしくて、ところがぼかばかしました」と書き表せているところからも伝わってきました。「自分のこと―作品の内容―自分のこと」という構成も見事でした。

ものにも気もちがあるんだね

盛岡市立高松小学校 二年

瀧田 茉白

このお話には、ずつと教室でさみしい思いをしていた「こくばん」が出てきます。子どもたちはぜんぜん見ないし、先生も字を書きません。だからつまらなくなつて、がまんができなくなつて、ある日の夜に、教室からにげ出してしまふのです。わたしは教室のこくばんをそうぞうしてみました。そして、こくばんになつたつもりで考えてみました。「みんなに見てもらえなかつたらどんな気もちだろう。だいににされなかつたらどんな気もちだろう。」そうしたら、かなしくて、いやな気もちになりました。にげ出したくもなりました。こくばんと同じ気もちになりました。

そしてこくばんは、王さまのしよくたくになりたいたいと思つて、おしろへとんで行きました。きつと、みんなでにぎやかにくらしただつたのでしよう。わたしもひとりぼっちはいやです。友だちや家ぞくといっしょにいたいのです。やつぱり同じ気もちです。王さまのしよくたくになれなかつたこくばんは、海にながされ、小さなしまの先生にひろわれました。そして、しまの子どもたちによるこばれて、大切にしてもらいます。こくばんはうれしくてうれしくて、

ずつとここにいようときめました。みんなのやくに立つことが、とてもうれしかったんだと思います。

わたしも、お手つだいをしたり、だれかのやくに立つと、とてもうれしい気もちになります。この本を読んで、ものにも気もちがあつて、わたしといっしょなんだと気づきました。そして読んだ後に、小さくなつたくつ下に「ありがとう。」と言つて、さようならをしました。くつ下が「どういたしまして。」と言つてくれたような気がしました。

冬休みがおわつて学校に行つたら、教室のこくばんにも「なかまだよ。」つて言つて、そしてきれいにふいてあげたいです。まつていてね。

(図書名『そらとぶこくばん』)

〈講評〉

「わたしは教室のこくばんをそうぞうしてみました。そして、こくばんになつたつもりで考えてみました。」と、登場人物に自分を重ねて気持ちを考えていますね。人物の行動をよく読み取り、つらさや喜びに共感している。茉白さんは、きつと思いやりの気持ちがあるやさしい人なのでしょう。実際に、小さくなつたくつ下へ感謝を伝える姿にも感動しました。「ものにも気もちがある」と本を通して気付いた茉白さんの心は、今まで以上に豊かに輝いていると思います。

おどろきの工夫

宮古市立山口小学校 三年

おの 小野寺朝妃
であら あさひ

昨年度日本をおそったたくさんの方風により、いねや野さいなどがたおされ大きなひがいで出たニユースを見ました。この本の始めに、米の品種改良により、何十年もかけて風に負けない米や病気にかりにくい米が開発されているとありました。米以外の食べ物も米と同じように品種改良をしているのか調べたくありません。この本を読めば食べ物のひみつを知ることができそうで、わくわくしながら読み進めました。

国語の学習で、大豆がしょうゆやとうふなどさまざまな形に姿をかえていることを学びました。同じように、魚は身をすりつぶしてちくわやかまぼこなどに、姿をかえていることを、この本から知ることができました。魚のほねを取るのがめんどうな人、やき魚の皮が苦手な人にとっては、このように加工して食べれば、おいしく食べられるしとても食べやすくなります。魚を食べれば、ほねやきん肉、かみの毛、つめなど、体をつくるはたらきのあるタンパク質をとることが出来ます。私の学級には魚が苦手な人がいるので、魚でじょうぶな体になることを教えたいです。

食べ物のれきしについておどろきのことが書かれていました。今から約四百年前の平安時代、なんと牛乳が薬として使われていたのです。なぜ昔の人は、牛乳が体にいいものだと分かったのか疑問に思い、調べてみました。平安時代に中国からつたわった医学書に牛乳には薬としてのこうかがある書かれてあったからだそうです。今ではどの学校でも給食に牛乳が出ます。私は家でも学校でも

毎日おいしく牛乳を飲んでます。えいようだけでなく集中力を高めるこうかもあると分かったので、これからも進んで飲むようにしたいです。

また意外だったことは、日本でとれたものよりも外国でとれたものをたくさん食べていることです。私の家のごはんは、日本でとれた食材が多いです。でも、日本の平きんでは、日本でとれた食材は四十%だけしかないということを知っておどろきました。私は日本でとれたものを食べたほうが、日本にとっても自分たちにとっても、いいことがあると学びました。

私はジャムが苦手です。この本を読んだ後にきょうみが出てきて、ジャムについて調べてみました。ジャムは、果物にさとうをまぜて加ねつすることで、くさりにくくし、冬にも果物を楽しむためのほん食だそうです。ジャムも工夫された食品でした。

食べ物を作っている人は、みんなおいしく食べてほしい、食べ物にふくまれるえいようを取り入れてけんこうになってほしいとねがい、食べ方を工夫してきたことを考えることができました。私は、これから好きなものでも苦手なものでも、作っている人に感しやの気持ちを持っていただきしたいと思います。

(図書名「いただきます図書鑑」)

〈講評〉

朝妃さんが、この本にとっても興味をもって読んだことや、読んで知ったことや考えたことをみんなにも知らせたいなど思ったことが、大変よく伝わってくる感想文でした。それは、本を読もうと思ったきっかけ、本を読んで初めて知ったことや驚いたこと、そして、本を通して、食べ物を作っている人の思いや願い、工夫に気づいた朝妃さんの読書の姿が見えてくるからです。この本で知ったことを、ぜひ、学級のお友達にも教えてあげてくださいね。

四年 最優秀賞

物に命が宿るつてことは

宮古市立田老第三小学校 四年

笛崎百奏

大工なのに、作るもの出来上がるもの全部が不恰好。巨大なイモかと思えば、それはコイだというし、ブタと思わしきものは犬だという。しかも、名前がジュリアーノですつて私はもう笑いだしてしまつた。ジュリアーノなんて、どこかの国のお姫様じゃないんだから。とにかくくるみちゃんのおじいちゃんの新しい家が作り出すものは、とにかく変なものばかり。わたしが「あり得ないわ」と思うのは、新しいの建てた家。さすが新ちゃん、家さえもゆがんでいゝる。大工さんだから家ぐらいしつかりしたものを作ってたらしいのにつて私は思つた。

でも、新ちゃんの作つた物は不思議なことが起こる。火が出るとイモみたいなオコイサマが水を吹くし、木彫りのはずのジュリアーノだつて番犬として活躍する。どうも新ちゃんの作り出すものは命が宿るらしい。形が本物そっくりで、そこに命が宿るつていうならちよつと分かるんだけど、それとは全く逆の見た目。なのに、これは一体どういふことなのか。

その秘密は、実は見た目が悪く出来上がることにある気がする。新ちゃんだつて、本当は本物そっくりに作ることを目指していると思う。でも、思うようにいかない。だからこそ必死になる。もしかしたら祈るような念じるような、そんな思いを持ちながら、ノミを一生懸命に打つ。だからものづくりをするときの気持ちの込め方が半端でなく、人一倍な気がする。その必死さや一生懸命さこそが物に命が宿る理由だと思ふ。

それから道具にも秘密があると思ふ。新ちゃんは「元大工さん」つていうのが正しくて、大工さんの仕事をやめてから何年もたつのにその道具はしっかり持っている。そして、それを時々使っている。ものづくりに真つすぐな新ちゃんだから、道具の手入れも今でもていねいにやっているにちがいない。そう考えると、仕事をしていた頃の新しいのもつともつと道具に対して愛情を持って接していたにちがいない。だから、道具一つ一つも新ちゃんによつて命が吹き込まれているんだと思ふ。そんな道具を使つて、心の真つすぐな新ちゃんが心を込めて作つたら命が宿らない方がおかしいつて言えると思ふ。

今の私は見たための良さにこだわつてしまふ。できたら、新ちゃんの親方が作つたゼンさんの木彫りの置物みたいな方に魅力を感じる。でも、新ちゃんの作つたお世辞にも上手とは言えないものにも出会い、そこにも良さがあるんだなつてことが分かつた。いつか、お兄ちゃんが国語の音読をしていた中に「もののよしあしつてのは見た目できまるもんじゃやない」つて文があつたつて。ものづくりをするときに、どれだけ思いを込められたかつてことが何より大事なんだつてことが、オコイサマやジュリアーノ達から見えてきた。

(図書名『おじいちゃんとおかしな家』)

〈講評〉

おじいちゃんのおかしな家にある、おじいちゃんが作つたものには、命が宿るらしい。一体どういふこと。百奏さんが、その答えを求めて、色々な考えをめぐらせながら本を読んだのですね。おじいちゃんの必死さや一生懸命さ、真つ直ぐな心に気付いた百奏さん。新ちゃんも、ゆがんだ家もオコイサマやジュリアーノも、百奏さんが分かつてくれたことを、とても喜んでいるのではないのでしょうか。この本を通して、物づくりについて深く考えたところが素晴らしかったです。

自分を認めて自信を持つとう

盛岡市立仙北小学校 五年

田中里奈

「グズグズ悩むより、声をあげた方が生きやすい。きつと手をさしだしてくれるやつがいる。」ミヒロのおじいさんの言葉だ。

題名のように「苦手なあの子」とどのように仲良くなれるのか私にとってはむずかしい問題だ。ミヒロとだれにも関心を示さない転校生リサの友情が深まっていく物語だ。「仲良くなるうと思つたら、相手のことを知りたくなるんじゃない。」逃げるリサにミヒロが言ったこの場面が特に胸が熱くなった。正に苦しむリサにミヒロから手をさしだされたしゅん間に思えたからだ。自分のことを思ってくれる人なんていないと思つていたりサがミヒロの言葉に心を開いた。心の奥底にある二人の気持ちが合わさったような気がした。自分のことを認めてくれて言ってくれているんだとまるで自分のことのようにうれしく感じた。

本当の友達になつたりサはミヒロの助けを借りてやけどのきずがある足をかくさないで歩くことにした。私ならまわりの人の目がこわくてそのようなことはできないと思う。リサはとても勇気があつたと思うし、心強い友達がいたからこそ一歩をふみ出せたのだと思う。二人が友達になれたのも、リサに、ミヒロが友達になりたいという真剣な気持ちが伝わったからだ。リサのツンとした表面だけ見ていたのではリサの良さが分からなかっただろうし、プールの見張りを手伝う時もミヒロが勇気を出さなければ仲良くなるきつかけもつかめなかつただろう。やっぱり、友達の力はすごいし、必要だと思つた。

リサの行動やその周りの人の行動を見て、世の中にいない人はいなく、どんな自分だとしても受け入れて好きになることが大事だと思つた。自分と性格が合わない人や苦手なタイプが存在するのは仕方がないかもしれないが、友達として好きになれるように積極的に話しかけてみるなど努力が必要だ。私なら苦手な子に自分から話しかけていくのは時間がかかるだろう。それではいけない。一人一人いいところを持つているのだからそれを周りの人が理解してあげて、自分自身もそうだと受け入れるのも大切だと思つた。

たまに失敗してしまうと自分はダメな人間だと思つてしまうことがある。しかし、自分に自信を持つて前に進んでいこうと思つた。なぜなら、失敗したときに手をさしのべてくれる友達が私の周りにもいるからだ。その中には以前はそんなに親しくなかつた子もいたが気が合わなそうと思つていただけで、コミュニケーションを取ると、相手の良さを見つつけられて心のきよりがぐつと近くなつた。友達がたくさん周りにいたら楽しいと思つし、いろんな人とたくさん話すことで、自分を知つてもらい、新しい世界を見つつけられると思つた。私も友達の声に耳をかたむけ、困つている友達がいたら、真つ先に手をさしのべたいと思つた。

(図書名「わたしの苦手なあの子」)

〈講評〉

登場人物の行動に思いを寄せ、そこで里奈さんが感じたことをたくさん挟み込んだことで、内容豊かな感想文になっています。また、変化をもたせた文末からは表現力の高さが感じられ、読み応えのある要素の一つでもあります。

段落と段落のつなぎ方が自然で、リサとミヒロの変化が感想文から分かりやすく伝わります。さらに、この本に合った身近な体験談を入れたことで、最終段落の結論がより引き締まりました。

ホモ・サピエンスが逆転できた秘密は

宮古市立田老第三小学校 六年

はたけ
やま
だい
き
畠山 大輝

社会の学習で出てきた石器。ほく達の祖先は、この石器を使って手先だけでは出来にくい仕事をやりこなしてきた。この石器は石をただ割っただけの簡単な造りだという。ということは、一番人間に近い知能を持っているチンパンジーもこれに似たものを作ったり使ったりできるのだらうと思っていた。しかし何度教えても一向にできるようにはならないらしい。この違いは何なのかというところ、脳の容量だという。また、この石器を造り出すという作業が脳の言葉を司る部分を刺激し、複雑な言語を生み出し操れるようになったのだそうだ。それこそがほく達の祖先、ホモ・サピエンスだ。

何よりほくが感動したのは、サピエンスが生き残った理由だ。ネアンデルタール人の方が強くて大きな肉体を持ち、脳の容量も現代人のほく達より多かったという。つまり、サピエンスの方が体力的にも弱く、脳だってネアンデルタールのそれに比べたら少ない。単純に考えたらネアンデルタールの方が生き残り、ほく達の祖先となりそうなものだ。しかし、それは違った。ほく達の祖先は、自らの弱さを知っていて、だからこそ多くの仲間と協力し合って生き延びてきたのだ。集団で行動し、厳しい生存競争を勝ち抜いた。また、弱いからこそ犬を家畜化し、共闘のパートナーにしたことも生き残れた原因と言えるだろう。このことは、何万年も前から今でも遺伝子の中に受け継がれているという事を知って、ほくの心は震えた。

その他にも、ラスコー洞窟やホーレンシュタイン・シュターデル

洞窟等からは絵や彫刻などの芸術品が出土している。三万年以上も前の人間が、現代人と同じように芸術品を生み出し、楽しんでたということも、ほくは驚きつつも思わず自分達との共通点があることに喜びを感じてしまう。これほどまでに時間の隔たりがあるにも関わらず、ここまで共通点があるのは、本当に楽しいと思った。加えて、二足歩行から人類の歴史はスタートしていると言えるが、これも自分の妻子を守るために地上に降りたのだそうだ。

こうして人間の祖先である人々と、現代人の自分達との共通点は「愛情」の一言に尽きると感じた。仲間や親、子どもを愛する。そしてみんなで集まって協力し合いながら、いたわり合う生活をする。その行動こそがホモ・サピエンスを厳しい環境の中で生き残ることができた柱となった。猿からホモ・サピエンスへ、そして、現代の人間まで進化できたのは仲間への愛であったことは驚くべきことだ。また、愛情とは今のほく達が生きていく上で欠かせないものだ。どんなに進化して体や脳が変わったとしても、この部分が変わらなかつたこと、そしてほくの中にもそれが存在することに不思議さを感じながらも、自分の周りの人達を大切にしていきたい。

(図書名「大逆転！奇跡の人類史」)

〈講評〉

本を読むことの楽しさや面白さがあふれてくる感想文です。

本の中に出てくる多くのデータを自分の頭の中でよく整理していることに感心させられます。強いものの方が弱いものより、より長く繁栄すると思いきや、人類の歴史はそうとは言い切れなかつたことの答えを見つけた時の感動が読み手に新たな感動をもたらします。

私たちが、今ここに存在していることを、進化と愛情という点から見直した高学年らしい内容でした。

岩手県小学校長会賞賞（低学年）

こくばんのきもち

盛岡市立厨川小学校 一年

こつじ かほ

どうして、二ねん一くみのみんなは、こくばんをつかわないのだろう。こくばんくんはみんなとなかよくなって、たのしくべんきょうしたいのに。こくばんくんだって二ねん一くみのなかまなのに。わたしのきょうしつ一ねん二くみでは、まい日、こくばんが大かつやくしているよ。もしも、こくばんがなかつたら、べんきょうがはんぶんしかわからなくなっちゃう。こくばんくんがにげ出したくなつたきもちがわかるなあ。じぶんがやくにたっていないのがかなしかつたんだよね。

こくばんくんは、王さまのしよくたくになるゆめをおもい出した。大きくおもしろいからだでたいへんなのに、一しよくけんめい空をとんだり、うみをおよいだりした。それだけ王さまのしよくたくになりたかつたんだね。わたしのゆめは、学校のせんせいになること。わたしは、おしえることがすきだから、いろいろなことをわかりやすくおしえるせんせいになりたい。そのときは、こくばんくんが、わたしのクラスのこくばんになってほしいな。こくばんくん、わたしのクラスのこくばんはいそがしいよ。わたしは、こ

くばんくんは、いっぱい字をかくからね。一字一字きれいな字でかくよ。そうすると、べんきょうがわかりやすいからね。そして、けしのこしがないようにしつかり字をけすんだ。こくばんくんをいつもきれいにしておいてあげるからね。

でも、こくばんくんは、とつてもいい、いばしよを見つけたんだよね。とおいところにあるしまの学校。こくばんくんをだいにじてくれるせんせいと、こくばんくんにかかれた字を見て、手をたたいてよろこぶ子どもたち。みんなのやくにたててよかつたね。ずうつと大せつにつかつてもらえそうだね。わたしも、みのまわりのものこのころの中をかんがえて、どんなものでも大せつに、こころをこめてつかつていきたいとおもうよ。

（図書名『そらとぶこくばん』）

〈講評〉

黒板の気持ちによりそって読み進めたんですね。そして、「やくにたっていない」悲しみを理解したり、自分の居場所を見つけた喜びを分かち合ったりできたことが文章から伝わってきました。かほさんのそうした思いや夢について「こくばんくん」に語りかけるように書かれている点もやさしさが感じられましたよ。素敵ですね。「こくばんくん」に、もしかほさんの言葉が届いたら、さぞうれしくなることでしょう。

盲目の犬レディを読んで

軽米町立晴山小学校 三年

古館和華

私は、この本を手にした時、すぐに表紙の犬の目の色がわるいことが分かった。なぜ、分かったかというところ、私の家でかっていた目のわるい犬と、目の色がにっていたからだ。目が見えないなんて、かわいそうだと思う。だけど、表紙の犬の表じょうからは、くらい感じは少しも感じなくて、すごくおだやかで楽しそうに見えた。この犬が見ている世界は、どんなだろうと思ひ、読んでみることにした。

表紙の犬の名前は、レディ。レディは、山本さん家族にむかえられ、お兄さん犬のトランプとさんぽをしたり、家の中を自由に歩き回ったり、ふ自由のない生活をしていた。そんなレディの目が見えていないと分かったのは、生後六か月のころだった。私は見えていなくてもぶつかったりせずに歩けるレディにおどろいた。私の家であっていた犬もレディと同じ室内犬でキララという。キララは、レディとちがい、初めは見えていたそう。でも自転車にぶつかっただけがもとで、だんだん見えなくなつた。さんぽも長いきより歩きたがらず、ごはんをさがすのも苦ろうしているようだった。それに人の気はいにおびえて、なかなかゲージの外に出てこなかった。私は、お母さんに、

「目が見えていないのは同じなのに、レディとキララはどうちがうのかな。」

と聞いてみた。すると、お母さんは、
「キララは、初めは見えてたから、見えないことをどうやって、おぎなつたらいいかわからなかったけど、レディは見えないのがあ

たりまえだったから、しぜんとかふうして知ろうとしたんじゃないかな。」

と言つた。たしかにレディは、はなをセンサーとしてきけんをさつちしたり、山本さんに顔を近づけて気持ちを感じとつたりしていた。レディは、見えていなくても自分のすんでいる家や自分をかこむ人やなか間が頭の中にながれかかっているんじゃないかと思つた。それは、とてもあたたかい色で、楽しさややさしさにあふれたものだと思つた。なぜなら、レディも、レディの周りの人やなかまもおたがいを見て、気持ちを理かいていたからだ。

私はこの本を読んで、顔と顔を合わせてコミュニケーションをとることで、あいてがこめた気持ちがわかるということを知り、レディから学んだ。人は、言葉という道具を持つていて、本当の気持ちをいわない時もある。だから、きちんと向き合つていなくて目が見えないのと同じだと思ふ。見えていないと私の方を向いてくれた人や動物をきずつけてしまうかもしれないので、しっかりとあいてを見て、話して、聞いて、時にはレディのようにふれて感じることを心がけたいと思つた。そうすれば、あいてにどうやったら気持ちが伝わるか、あいてがもとめていることがわかり、行動できると思ふ。大切なことにきづかせてくれたレディ、ありがとう。

（図書名『がんばれ！盲目の犬レディ』）

〈講評〉

和華さんの「きちんと向きあつていないと目が見えないのと同じだ」という言葉に、ドキリとしました。この本を通して、和華さんは、レディやキララの不安も喜びも想像することができました。そして、目が見えなくても周りの人や仲間の温かさを感じることができ、相手が求めていることを分かつたり気持ちや伝えようとしていたりすることが大事だと考えることができました。相手と向き合おうとする気持ち、大切にしてくださいね。

積み重ねることの大切さ

宮古市立山口小学校 五年

川戸綾乃

私は「ありのままの自分」を出すことは必要なのだろうか、この本を読み終えたとき考えました。すべてを打ち明けることは、とても勇気がいるからです。この本に登場する転入生の「リサ」は、誰とも仲良くなろうとしません。心臓が悪いとうそをついてプールは見学。でもプールに入らない理由が、やけどの足を見せたくないということを知ってしまった「ミヒロ」は、積極的にリサと仲良くなろうとします。それでもリサは冷たいままです。そんなリサのことをミヒロが苦手になるのは当然です。それでもミヒロは、夏休みの宿題である「苦手を克服すること」に「本間リサ」と書いたのです。ミヒロがリサの心にひびく行動を最後まで続けたことで、二人の間に友情が生まれていったのです。

私が好きな場面は、ありのままの自分を受け入れるために、リサがプールに行つて泳いだところです。いじめられた原因のやけどを隠さないようにしようと、少しずつ前に進み始めたリサは、私とは逆だと感じました。私には勇気がありません。不登校や両親のけんかの原因がリサのようなやけどであれば、ずっと隠そうとするだろうし、やけどのことをまた言われたら、その場からにげだしてしまおうでしょう。リサの強い気持ちを表す「自分を変えたいんだ。傷あとも含めて私なんだって、胸を張って歩きたいの。」という言葉から、本当は勇気があり、ありのままの自分になろうと努力しているのが強く伝わってきました。でも、ここまでリサの気持ちを高めさせてくれたのはミヒロです。決してあきらめずに苦手を克服しようとする

るリサと、そのリサを前向きにさせ、親友として接し続けたミヒロの姿に心がひかれました。

私も苦手なことを克服したいと思っています。思ったり声に出したりするけれど、なかなかそれを行動に移すことはできません。私の学級の二期のテーマは「有言実行」でした。私達で決めたことの中で「残食0」は達成できました。しかし、「忘れ物0」は達成できませんでした。一人一人の意識を高め、残食0をやりとげたときのような達成感をみんなで味わって、六年生に進みたいです。

私が今リサの立場だったら、「友達にいじめられたくない」「早くこの傷を治して傷のない自分になりたい」と思うはずですが。ありのままの自分になるには、結果をおそれずに「こうなりたい」と思ったことに向かつて、まず行動することです。私は、ものごとを前向きに考え本音を話すことで、一つ一つの障害を乗り越えられることを、この本から教わりました。「えー」「やだなあ」と思ったときには、自分の苦手なことを素直に受け止めて、リサのように小さなことから一つ一つ乗り越えていきたいです。その積み重ねが、大きな力になると思うからです。

〔図書名「わたしの苦手なあの子」〕

〈講評〉

本を通して出会ったリサと綾乃さんが、感想文を書くことによって、その距離をどんどん縮めていることが分かる構成になっています。書き出しの一文と、書きまとめの一文を一致させることで、一貫性のある安定感のある感想文になっています。

人間には弱みがありますが、綾乃さんもここで書いているように、それらを克服したい気持ちも当然あります。この感想文は、このような苦手を克服したいと思う人たちへのエールになりそうです。

あつたらいいな、空のいえ

花巻市立宮野目小学校 一年

おとべひより

この本は、わたしがほいくえんのころから好きな本です。わたしの一ばんなかよしのともだちのなまえとおなじ「そら」がついているところもおきにいりです。

この本には、ツピくんというとりが出てきます。ツピくんは、さむい中、はなのたねをさかせるためにとびたちます。どんなにさむくてもぐんぐん空にむかっていくツピくんはとてがんばりやさんだなあとおもいました。

この本をよんでいくと、十かいごとにすてきなおへやが出てきます。わたしは、その中でも一ばん八十かいのおへやがすきです。八十かいのおへやは、ゆかやかべや天井やうがにじみたいでとてもきれいです。八十かいにすんでいるのは、かわいいオーロラさんです。わたしはきれいなオーロラさんのおへやで、大きな空ちゃんといっしょにあそびたいなあとおもいました。

百かいだてのいえは、十かいごとにおへやがぜんぜんちがうことがおもしろいなあとおもいました。すんでいる人もかいでちがうので、ツピくんはあたらしいともだちがいっぱいできました。わたしは、ツピくんが上のおへやに

いくごとに、であつたともだちからたくさんプレゼントをもらって、おはながどんどん大きくなっていくのもおもしろいなあとおもいました。あたたかいくきでふたばが出たり、七いろのビームでひまわりのねつこがはえたりして、ツピくんがともうれしそうに見えて、わたしもうれしくなりました。さいごには大きくてすてきなひまわりがさいたので、ツピくんはきつとすぐくハッピーなきもちになつたとおもいます。

もしも本とうに百かいだてのおうちがあつたら、たいようちにちかくてもあついかもしれません。でも、わたしはツピくんのようにとんでいき、あたらしいともだちにたくさんあえたらいいなあとおもいました。

〔図書名〕『そらの100かいだてのいえ』

〈講評〉

ひよりさんは、この作品のみりよくである「たくさんのお会い」に目を向けていますね。それも、十階ごとではなく、一階ごとにどんな人物がいるのかや、ツピくんどんな関わりをもっているのかまで興味深く見ていることが文章から伝わってきました。ツピくんになつたつもりで読み進めているところもあつたのでしよう。気持ち豊かに想像できていますからこそ、絵の中の人物の表情にも着目することができています。「絵」本の楽しさを味わっていますね。

残念以上の努力

盛岡市立好摩小学校 四年

嶋しま

瞳ひとみ

この本は偉人の残念な部分を集めた本です。私はその中で三人の話がおもしろいと思いました。

一人目は石川啄木です。石川啄木は岩手県生まれで天才詩人ともてはやされました。残念なところは、どうしても会社に行きたくなくて仮病で休んだり、夜おそくまで本を読んでいて朝起きることができなくて会社をさぼったりしたところです。私も学校や習いごとを休みたいと思うことがあるけれど、啄木はたださぼりたかったのではなく、短歌を作ったり、本を読んだりしたかったのかもしれないと思いました。私のおじいさんは啄木の研究をしていました。啄木はひとばんで百首以上の短歌を作ったと教えてくれました。自分の好きなことにいっしょうけんめいだったから、たくさん短歌を作ることができたと思います。

二人目は芥川龍之介です。芥川龍之介は大正期を代表する小説家です。残念なところは、関東大震災のときに、「地震だ。早く出るように」と言って、妻子を見すてて自分だけ先に家からにげ出したことです。私は芥川が自分のことしか考えていないことにびっくりしました。私のお父さんだったら、家族のことを見すててにげたりしないと思います。でも、自分のことしか考えていないから、おもしろい小説がたくさん書けたのかもしれないと思いました。相手のことばかり考えている人が小説を書いても、おもしろい小説や不思議な小説にはならないと思います。

三人目は西郷隆盛です。西郷隆盛は鹿児島生まれで江戸城無血開城を実現し、倒幕に活躍しました。残念なところは、親友にめいわくをかけたところとのんきなところです。西郷が鳥送りにされたとき、鳥からもどつてこられるようにしたのが親友の大久保利通でした。西郷は鳥で正妻とは別の妻をめぐって子供をつくり、鳥の生活を楽しんでいました。鳥から帰ってくるのがゆるされると、西郷はいきなり主君の島津久光を田舎者あつかいするようなくつじょく的な言葉を言って、おこらせてしまいました。そしてまた鳥送りにされて、大久保の努力を水のあわにしてしまいました。私だったら二回も鳥送りにされないように言葉には気をつけると思います。でも、西郷がそこでくつじょく的な言葉を言わなかったら歴史も変わっていて、今のような日本にはなっていなかったかもしれません。そして西郷ののんきなところがみんなに愛されて尊敬されたのだと思います。

私はこの本を読んで、偉人でも失敗をしたり、人にめいわくをかけたりにしていることを知りました。でも、それ以上に努力をして、欠点を長所に変えると、大きな夢を実現できるのだと思いました。私もいろいろと失敗をするけれど、失敗してもあきらめないで努力ができるようになりたいです。

〔図書名「さんねんな偉人伝」〕

〈講評〉

素晴らしいものを残した偉人のみなさんにこんな残念なところがあったとは。驚きでしたね。瞳さんは、残念なエピソードを読みながらも、「私も休みたいことがある」と啄木の気持ちによりそったり、友達思いの親友がいる西郷のことを喜んであげたりしています。そして、残念なところが、実は、その人の夢をかなえようとする努力によって、長所が変わっていると気づくことができました。「残念以上の努力」大切にしていきたいですね。

乗りこえるために必要なもの

宮古市立山口小学校 六年

里見 ゆうか

「人を傷つけるのも人だが、なおしてくれるのも人なんだよ」

このセリフが、私の心に残った言葉です。このセリフを読んだとき、私はとても共感しました。けんかをしてしまったとき、傷つけてしまうのも人、悩んでいるとき、傷をなおしてくれるのも人です。

リサも、前の学校でやけどのことでいじめられ、たくさん傷つきました。でも、今は信頼できるミヒロのおかげで、心の傷もなくなりました。

ミヒロはリサにとって、大切な存在です。ミヒロは「リサと仲良くなりたい」という素直な気持ちを伝えてくれました。また、やけどのこともあまり気にせず、いつもそばにいてくれました。リサもミヒロも、おたがいのことをとても信頼していることがよく分かりました。

私も、ミヒロと同じように苦手な人には、積極的に話しかけるようにしています。その人の良さを知れば、仲良くなれると思うからです。

でも、リサの立場だったら、あまり話しかけられないと思います。私は、人見知りなので、知っている人が一人もいないところに行くのは、少し不安です。また、やけどのことでいじめられるのは困るので、話さないと思います。

リサは、足のやけどをかくさずに過ごしていて、ミヒロのおかげで、成長したのだなと思いました。そして、大好きな水泳もでき、ありのままの自分を受け入れることができるようになりました。

リサは、ミヒロに

「ミヒロ、今まで、いっぱいありがとう」

と感謝の気持ちを伝えて、二人は本当の友達になることができました。私の心もうれしい気持ちでいっぱいになりました。

私は、この本から、一人では乗りこえられないことも、だれかとなら乗りこえられることを学ぶことができました。そのだけかというのは、信頼できる友達だと思います。

私も、体育が苦手で、水泳でも全然泳げませんでした。でも、たくさんさんの友達が練習に付き合ってくれました。泳ぐときのコツを教えてくださいたり、手本を見せてくれたりして、とてもうれしかったです。「今の、良かったよ」

などと言われたときには、それが自信になりました。みんなのおかげで、三年生のころは、水にうくのもこわかった私が、今は、クロールでコースの半分くらい泳げるようになりました。練習に付き合ってくれた友達、応援してくれた家族や先生には、とても感謝しています。

これからも、自分の力をかしたり、友達の力をかりたりしながら、たくさんのかべを乗りこえていきたいです。

（図書名「わたしの苦手なあの子」）

〈講評〉

登場人物の会話文から始まる書き出しが、読み手をひきつけます。登場人物の心の動きや会話に寄り添って読み、素直な言葉で表現することができている感想文です。

ゆうかさんの周囲には、ゆうかさんを励まし力を与えてくれる人々がいるのですね。その体験がこの本の大切なことと重なり、説得力ある文章になっています。感想文の最後の文に宣言された言葉に拍手を送り、応援しなくなりません。

ゆう気を生みだす物

軽米町立晴山小学校 二年

古^{ふる}だてとうわ

ぼくのすきなものは、海の生き物ときょうりゆうです。

この本を学校でくばられたちゆう文用紙で見て、すぐにお母さんにねだりました。この本は、一人ぼっちのビックというトリケラトプスが、自分をたすけてくれたトリケラトプスのむれをまもるために、ティラノサウルスとたたかうお話でした。

この本を読んで心にのこったのは、ティラノサウルスに一人で立ちむかうビックのすがたです。ぼくは、ゆう気があるな、かっこいいなとこうふんしながら読みました。ぼくがビックならにげだすかもしれないと思いました。なぜなら、あいては肉食じゅうだし、二ひきたい一ぴきでかてる見こみがないからです。ぼくは、お母さんに、

「ビックは、なんでこんなゆう気と力があふれたのかな。」
と言いました。お母さんは、本をめぐって、

「ビックは、一人じゃなかったからじゃないかな。」
と言いました。考えてみると、ぼくもほけんしさんやお母さんがいたから力が出たという時がありました。それは一年生の時、ともだちのかんけいでなやみ、家であれたこ

とがありました。その時は、お母さんに言いにくいことはほけんしさんが聞いてくれたし、お母さんもぼくのいいところをさがして、たくさんほめてくれたり、いっしょによろこんでくれたりしました。ぼくは、自分がみとめられていると思いました。そして、前をむくゆう気も出たし、やつあたりすることもへりました。

ぼくは、この本を読んで、ささえてくれる人のありがたさを知りました。だから、ぼくもだれかの自しんにつながるような声がけを心がけたいと思います。そして、ぼくやビックのようにゆう気を出して、一歩ふみだせるなかがふえたらいいと思います。

（図書名『恐竜トリケラトプス はじめてのたたかい』）

〈講評〉

とうわさんは、自分とビックを比べながら読んでいることが分かりました。そうすることで、ビックのすごさを実感したり、自分との共通点を見つけ出したりしています。特に、「支えてくれる人」がいることに気づき、その存在のありがたさを実感しているところがすてきたなと感じました。「だれかの自しんにつながるような声がけを心がけたい」と、本をきっかけに新たな一歩を踏み出そうとしているとうわさんは、「支える人」にもなれると思えますよ。

ティラノサウルスの本当のすがたは

宮古市立田老第三小学校 三年

佐々木友吾

ティラノサウルスっていったら、世界さいきょうのきょうりゅう。ほかの大型きょうりゅうをおそつては肉を食う、そんな凶ぼうないイメージがある。だから、ティラノサウルスはきょうりゅうの中の王者と言えるそんざいで、かっこいいと思っていた。

でも、アメリカで発見されたティラノサウルスの化石「スー」は、小さなティラノサウルスといっしょに発見されたことや、しつぽの付き方から、メスだったかのうせいが高いと知り、ぼくはとてもおどろいた。おどろいたのはそれだけじゃない。ほかのこれまでのイメージだと草食のきょうりゅうはむれで生活するけど、肉食のきょうりゅうはたんどくで生活していると思っていた。でも、スーは子どもだけでなく、若い大人のティラノサウルスともいっしょに行動していたようだというのだ。もしかしたら家族だったかもしれない。そう思ったら、何だか今までの凶ぼうないイメージが急に丸くなつた気がした。

他にも、スーには仲間であるはずのティラノサウルスのものと思われる歯のあとがのこっていたそうだ。仲間同士は戦わないと思っていたのに、これもまたおどろいた。きょうりゅうの時代は、自分の家族でなければそれは全部敵だということがぼくには見えてきた。そして、凶ぼうなティラノサウルスであっても家族、特に自分の子どもを守るためには、自分がどんなにきずついても戦うんだろうなという、強くてやさしいすがたも見えてきた。ぼくのお母さんだって、ぼく達兄弟のためにどんな大変なことだってやってくれる。

あの震災のときだつてまだ一才を過ぎたばかりのぼくと三才のお兄ちゃんをまもつてくれた。それと同じようにスーは、まだ小さくて弱々しい子どもを命がけで守つたにちがいない。

ぼくは、ティラノサウルスについてもつと調べてみた。すると、歯の大きさは三十センチ、顔の大きさはぼくの身長に近い。物をかみくだく力は八トンだという。一度にするウンチの量は二・四リットル。こんな巨大で、とてつもなく強そうな動物が絶めつしたのはとても不思議だが、今、この世にティラノサウルスが化石としていてくれることに、ぼくはわくわくする。ぼくにとつてスーとの出会いは、ティラノサウルスのこれまでのイメージをガラツと変えてくれた。ティラノサウルスだけが持つ勇ましいすがただけでなく、ぼくたち人間が持つような親子愛や家族愛を持つていたということに、ぼくはおどろきといっしょにうれしさを感じた。

きつとこれからも、世界各地で色々なきょうりゅうの化石が発見されるだろう。そして、そこからまた新しいことが分かつてくると思う。化石から分かる新しい事実は、ぼくたちをびつくりさせてくれるものなのか、今までのイメージをもつと強くさせてくれるものなのか、今から楽しみだ。

〔図書名〕『ティラノサウルス』

〈講評〉

想像もできないような大昔の恐竜時代。しかし、化石の発くつは進み、新しい化石の発見から、恐竜のことがさらに少しずつ分かつてきています。友吾さんは、この本を通して、今まで知っていたこととちがう事実に素直におどろいたり、恐竜の親子愛や家族愛に嬉しさを感じたりしています。想像力をうんと働かせながら本を読み、新発見への期待にわくわくした気持ちで本を閉じた友吾さんの姿が見えるようで、大変嬉しくなりました。

ビルと、家族と、化石と

宮古市立田老第三小学校 五年

佐々木 大吾

彼の化石をふくめていつさいの物は、知識と教養を求めてやまない、好奇心が旺盛で、知的な人すべてに自由に見てもらえるようにという指示なんだ。シーリー博士がビルに言ったこの言葉は、今までのどんな言葉よりビルの心に響いたことだろう。なぜなら、ビルにとって最大の関心事ばかりが詰まった場所だからだ。それは、価値の高い化石はどれなのか知りたいというものもあつただろう。しかし、ビルの一番の興味はやはり、自分が発掘途中のワニ君について知りたいということだろう。ワニ君は一体どういった動物なのか、恐竜として本物なのか、博物館でシーリー博士と一緒に見る化石が、自分のワニ君と似ていることが分かったときは、ビルの心臓はものすごくドキドキしただろう。ビルは知れば知るほど、力強くなっていくとぼくは感じた。

ビルのお母さんは

「教育は望む仕事を与えてくれる。」

といつもビルに言っている。ビルが化石について知ることも勉強の一つだとぼくは思う。でも、ビリーの時代にはそのようには考えられていないらしく、彼が化石にのめり込めばのめり込むほど、お母さんの表情はくもつていくし、きびしい態度になっていく。ぼくならすぐに止めて、お母さんの言う通りにすると思う。それでも、彼がめげなかつた理由は、あたたかい家族を取り戻したい一心だったからだと思う。朝はみんなで一斉に起きて朝食をとり、ビリーは学校へ、お父さんは仕事へ、そしてお母さんは家事をする。夕方に

はみんな笑顔で夕飯を食べる。そんな当たり前が、ビルの家族にはなくなつた。笑顔のひとかけらもないような状態だ。それは、ビルは自分のせいだと思ひ込んでいる。そして、お金がないせいだと思ひ込んでいる。だから、彼は自分の力で何とかお金を手に入れ、何としてもお母さんの笑顔を取り戻したいと思つたから、ちよつとやそつとであきらめることはしなかつたのだろう。また、そうやって、力強く頑張るビルには、それを手助けする人達がどんどん集まってくる。アルフやアルフの両親、そしてビルのお父さんも。そんなビルにはぼくは尊敬の念さえわく。

ビルがそうだったように、何かを知るといことは、自分の足元を照らしてくれる光を手に入れるようなものだと思う。反対に何も知らないといことは、真つ暗やみの広い場所に放つて置かれたような状態と言えるのではないかと思う。先生が時々言う「知識はいくらあつてもじゃまにはならない」という言葉、その本当の意味が少し分かつたような気がする。しつかりとした知識がなければ、アルフが悪徳化石売りにだまされかけたような場面が、ぼくに何度もふりかかつてくるだろう。ぼくは、ビルに少しでも近づけるよう、これからの色々な学習、体験をして、視野の広い人間になっていきたい。

〈講評〉

物語が展開するうえで大事なできごとを落とさずに読み、場面の状況をしつかりとつかんでいます。

ビルの行動や会話に共感し、大吾さんが感じたことを、大吾さんの言葉で素直に表現され好感がもたれます。また、登場人物同士の関係性について、深く考えていることも評価されます。

短い文を連続させリズムミカルに書かれた文体は、読み手に心地よい印象を与えています。

〔図書名「笑う化石の謎」〕

たんじょう日おめでとう

盛岡市立土淵小学校 一年

八えがし 翔しょう

ぼくは、たんじょう日が大すき。ほしいものを買っても
らえるし、おいしいものをたくさんたべられるし、ケーキ
もたべられる。そして、たくさんの人が、

「たんじょう日おめでとう。」

をいうためにあつまってくれるんだ。だから、たんじょう
日は、ぼくにとって一年に一どだけのとくべつな日。

ポワロくんもきつとたんじょう日をたのしみしていた
んだね。だから、しんゆうのスコットくんにしようたいじよ
うをわたしたんだね。でも、あんなしょうたいじよじゃ
あわからないよ。もってくるものが、クイズみたいになっ
ているんだもの。人げんのことばがまだじょうずにできな
いともだちには、むりだとおもうよ。ぼくもむずかしかつ
たな。

スコットくんは、大すきなポワロくんのために、一生け
んめいかんがえたよ。そして、ポワロくんのほしがって
いたものをズバリあてたよ。ポワロくんのほしかつたものは、
ろうそくとんがりぼうしとケーキ。ぜんぶ、たんじょう
日には、大せつなもの。あるととってもたのしくてうれし

くなるものばかり。ぼくのたんじょう日パーティーにもあ
るとうれしくなるな。

スコットくんは、ポワロくんのことが大すきだったとお
もうよ。だって、あのしょうたいじょうのクイズじゃあふ
つうは、わからないよ。しんゆうのポワロくんがよろこぶ
かおをかんがえながら、三つのほしがっていたものをぜん
ぶあてたのがすごい。

ぼくのたんじょう日もみんなが、ぼくのことをよろこば
せようとしてくれるよ。たんじょう日は、はじめて、おと
うさんとおかあさんにあつたきねんの日。ぼくがうまれた
日をかぞくやしんせき、ともだちなどたくさんのおい
わいしてくれる。ポワロくんのたんじょう日もとつても
とつても大せつな日だよ。ぼくからも、
「ポワロくんおたんじょう日おめでとう。」

〔図書名「スコットくんとポワロくん」〕

〈講評〉

翔しょうさんは、このお話の大きな出来事である「誕生日」にスポットを当
て読んだですね。自分にとつての誕生日と、スコットくんとポワロく
んにとつての誕生日を重ねながら読みを深めているところに感心しました。
感想文全体に「翔さんの思い」がバランスよくちりばめられています。こ
の作品のなぞかけのようなしなやかな楽しみの一つであると思いますが、そ
れ以上の作品のみりよくを見出しているところに見事さを感じましたよ。

ことばの向こうがわの思いを考えて

宮古市立田老第三小学校 二年

畠山 芽依

「車に気をつけろ。よそ見をするな。」

なんて言われたら、ちょっとこわい。ヒナちゃんは、学校の行き帰りに、がんこ者のおじいさんにこんなふうに言われる。めいれいされてるみたいだし、きつと声も大きいだろうし、たぶんわたしなら泣いてしまうかもしれない。そんなおじいさんに、星のせかいに行つてまで会うなんて、すごくびっくり。なぜって、本当はヒナちゃんは亡くなつたおばあちゃんに会いたくて、星のせかいにチャミーに連れていつてもらつたはず。星のせかいだから、ヒナちゃんいがいの人間はいるわけがない。なのに、どうしてがんこ者のおじいさんがいるんだらつて、わたしはとてもふしぎでたまらなかつた。

わたしは、なんだか読みかえすうちに、二人が出会つたわけを見つけた。それは、二人とも自分だけのようせいがあること。そして星のせかいに行けば亡くなった人と会えると思つていること。でも、何より一番のきょうつう点は大すきな人を亡くしていること。その思いが強かつたから、二人が引き合つて、広い星のせかいで出会つたんだつて

思つた。

そこでヒナちゃんはとても大切なことが分かつた。それはおじいさんががんこ者になつたわけ。おじいさんは、ヒナちゃんを自分のまごみたいにだいに思つていてくれたこと。だいいじな人がじこで亡くなることがないようにしたいという思い。それから、自分が体けんしたかなしみやくるしみを、ほかの人にさせたくないつていう思いがあつたから、強い言い方になつていたということ。

もしかして、わたしもこのお話のおじいさんのように、一見こわい人に出会うかもしれない。でも、その人のことばの向こうがわにどんな思いがあるのかを、しっかりとみずえることができるようになりたい。そして、その人をきちんとりかいできる人になりたい。

(図書名『チビまじよチャミーとほしのティアラ』)

〈講評〉

芽依さんは、登場人物の気持ちをよく想像しながら読んでいますね。中でも「どうしてがんこ者のおじいさんがいるんだらう」と不思議に感じたことを何度も読み返して考えているところがさすがだなと感じました。そして、いくつかの共通点を見つけ、答えを導き出していることに驚きました。人の心は見えにくいけれども、行動からおじいさんのやさしさを読み取つている芽依さん。すでに「ことばの向こうがわの思いを考へ」られていますよ。

おじいちゃんの生き方から学んだこと

洋野町立中野小学校 三年

粒^{つぶ}來^ち夏^か帆^ほ

「かわいそうなおじいちゃん。」

これが、この本を読み始めたばかりの感想だった。しかし、火事でお家をなくしてしまったおじいちゃんは、いつまでも落ちこんではいなかった。

まず、やけのこった柱で木ぼりのコイを作った。だれが見ても木ぼりのコイには見えない。けれど、くるみの友達のマナちゃんの家が火事になった時、水をふき出して火を消してくれた。他にも、おじいちゃんは、木ぼりでブサイヌや光が当たると火をふく「れ」の字の形をしたりゆうなどへんてこなものを作る。おじいちゃんの発想力はすごいと思う。

「作った物が動き出す」ということは、ありえない事だと思うが、実は、だれもが一度は、「動いたらいいな。」と考えるのではないかと思う。たとえば、わたしの弟は、ブロックが大好きで、いつもロボットを作っては、

「ギー、ガシャン、ガシャン。」

と言いながら、む中になつて遊んでいる。もしも、弟が作ったロボットの動き出したら、目をキラキラさせてよろこぶだろう。動くロボットの、お店でも買えると思うが、自分で作った物が動いたら、かくべつにうれしいと思う。

わたしは、テニスをやっているが、し合でチャンスボールが来たら、「ラケットが勝手に動いてスマッシュを決めてくれたらラッキーだな。」とチラリと考えた。しかし、そんな事はぜったいに起こら

ないので、毎日のすぶりをがんばろうと思ひ直した。毎日がんばって練習をしていれば、体の方が勝手に動いてくれるかもしれない。

それにしても、おじいちゃんの友達のおんさんまでが木ぼりの人形だったことには、かなりおどろいた。読んでいて、思わず、「えー。」

とさげんでしまった。すっかりだまされた。人形と分かっていても、生きていた時と同じようになかよくしているなんて、やっぱりおじいちゃんはただものではない。「友情は死んでもかわらない。」わたしもくるみと同じ考えだ。

シヨッピングセンターにおじいちゃんの土地を売るかわりに、屋上におじいちゃんの作ったへんてこな家をいぢくさせて住むなんてとんでもないであんだと思った。しかし、その話がうまいくいつて、おじいちゃんの家が美じゅつ館で、ゼンさんが館長で、オコイサマやブサイヌや「れ」のりゆうが作品としてかざられるなんて、人生何が起こるか、やってみないと分からないなと思った。

おじいちゃんは、家が火事になって、何もかもうしなつてしまつたけれどそこであきらめなかつた。楽しく前向きに考え、行動する事で、人生は楽しくなるのだなと思つた。わたしも、これから、あきらめず考え方を少し変えてみようと思う。

(図書名『おじいちゃんとおかしな家』)

〈講評〉

この本を読んで、おじいちゃんのおどろきの行動から、勇気もらいましたね。それに、あきらめなくなるようなことがあつても、楽しく前向きに考えることで、悪いじようきようをはねのけたり、人生を楽しくしたりすることができると教えてもらいました。夏帆さんは、とても弟思いで、テニスががんばっているすてきな三年生です。おかしな家を作つたおじいちゃんに負けなように、前向きに色々なことに挑戦してくださいね。

レデイが教えてくれたこと

大船渡市立大船渡北小学校

四年

松村

黎

「レデイ」は、作者でアーチェリーのオリンピックメダリストでもある山本博さんがかっているメスのミニチュアダックスフントだ。

山本さんは犬好きで、レデイの他にもゴールデンレトリバーの「トランプ」、レデイと同じミニチュアダックスフントの「ナナ」、「ティアラ」、事故で亡くなってしまった「アリス」などたくさん犬をかっている。

その中で、レデイはおしつこの場所を覚ええない、段差につまずく、散歩の時に電柱やガードレールにぶつかるといったことがあったので、じゅう医さんにしんさつしてもらった結果、生まれつき目が見えないということが分かった。

山本さんもおどろいていたが、ほくも盲目の犬がいるということを知らなかった。たしかに犬は、人間よりきゆう覚やちよう覚がすぐれているけれど、目で見える情ほうがないのだから困ることはたくさんあったと思う。さらに困っていることを犬は言葉で伝えられない。だから山本さんも気付かなかつたのだ。

ほくは、レデイをかわいそうだと思った。そして、目が見えない犬のおせわが自分ができるか不安になってしまった。

けれど、山本さんはほくとちがった。ペットシヨップに返したりせず、家族としてそのままかうことにしたのだ。

山本さんの「ひとつの命をあずかる。」という言葉がほくの心に強く残っている。それは、動物達をモノのようにあつかっている人々

へのメッセージなんだと思う。せき任や覚ごがなければ生き物を使う資格はないとほく自身に対して言われたような気がした。

山本さんは、レデイ達に家族としての愛情をたくさん注いでいる。レデイが歩きやすくなるように家を直したり、リードの動きで進む方向を教えたり、家族みんなで旅行に出かけたりしている。大変なことでもたくさんあると思うけど、山本さん家族の楽しそうな感じがほくにも伝わってきて、何だかうらやましくなった。

犬達もレデイを支えている。いつも一緒にトランプ。そのトランプが亡くなった後に山本家に来たティアラとナナもレデイを真ん中にして散歩の時にガードレールなどぶつからないように守ってくれている。これならレデイも楽しくくらせるなとほくは思った。

犬をかうということはせき任重大だ。でもそれ以上に愛情をもつてお世話をすれば、必ず犬にも伝わると思う。レデイ達は大事な山本家の一員なのだ。

どんなに大変なことがあっても、それ以上にいっしょにいる楽しさ、よるこびが山本家にはあると思う。家族としてみんなで支えあうことの大切さを、ほくはレデイ達から教えてもらったような気がする。

ありがとう、山本さん、レデイ。

(図書名『がんばれ！盲目の犬レデイ』)

〈講評〉

目が見えないレデイのことを想像すると、とても胸がいたくなりますね。そのレデイが、山本さんや仲間の犬たちに助けられながら、元気に生きていく。何とすばらしいことでしょう。黎さんは、山本さんの「ひとつの命をあずかる」という言葉をしっかりと受け止め、考えました。動物を飼うということは、家族の一員として生活すること。支え合うということ。いっしょに楽しみ喜び合うということ。黎さんの言葉から私も学びました。

仲間を大切に

宮古市立山口小学校 五年

中島朋海

今も世界のどこかで、武器を使った戦争が起きています。戦争のニュースを見るたびになぜ戦争をするのか疑問を感じます。この物語は、ピーターという男の子とボックスというキツネが、戦争によってはなればなれになり、その後奇跡的な再会をする実話です。私はピーターが好きになりました。戦争のために森に置いてきてしまったボックスを、何度も失敗しながら自分一人で捜しに行きます。そんなピーターに私は「ボックスはずっとあなたがむかえに来てくれることを信じているはずだからね。」と伝えたいです。おたがい信用し合わなければ、再会できる可能性は少なくなるかもしれません。ただ、戦火の中であることから、もしかしたら会うのは無理かもしれないという気持ちは、どこかにあつたかもしれない。その気持ちを少しでもやわらげるためにも、「絶対に会えるんだ」という強い気持ちを持つてほしいと思いました。この本を読めば読むほど、ピーターを応援したくなりました。

ピーターとボックスがおたがいのことを思いやっているのは、ピーターはお母さんを亡くし、ボックスには両親が亡くなってしまったという共通点があるからだと思います。私にも気持ちが通じ合う友達がいいます。共通の話題でいつも盛り上がります。はなればなれになってしまった二人の話から、こうした気の合う友達とはとても貴重な存在だと、改めて感じました。

二人とも足を痛めます。それでもあきらめずに捜し続けます。私は、周りに助けを求めるか、足の痛みでもうあきらめてしまおうでしょ

う。たえられない痛みでもがんばってボックスのもとへ向かうピーターは、やっぱりかっこいいです。そんな強い気持ちがあるから、ボックスも、ピーターのおいもしないのに「ピーターは近くにいる」と直感したのだと思います。

この本を読み、「戦争なんてなければ」と何度も考えました。戦争をしている人は、自分の国を一番にするため、周りのことなんて考えずにやっていると思います。学校の授業で戦時中を舞台にした物語を学習しました。戦争によって失われるもの、それは「人の命」「人が住む場所」「思いやる心」です。こんな悲しみしか生まれない戦争は、決して起こしてはいけません。

ピーターもボックスも、おたがいを信じ続けたから無事再会することができたと思います。相手のことを思いやり、またその人のために何事もすぐにあきらめず、絶対にやりとげるのだという強い決意を持つことが大事であると、この本から学びました。心から信頼し合える友達を大切にしていきたいです。

〔図書名「キツネのボックス」〕

〈講評〉

戦争を舞台にしたこの本を、日頃耳にするニュースや学校の授業で学んだことと合わせて読むことで、感想に厚みが出ました。朋海さんのように一冊の本だけでなく、関連する情報を重ねて読んで根拠にしたりすることで、考えが深まります。

感想文の題名となっている「仲間を大切に」ということを、感想文の結びに繰り返すことで、訴えたいことがより強調する効果が表れています。

心の修理屋

滝沢市立鶴飼小学校 六年

赤坂祐生

修理とは、物をなおすことだと思っていた。しかし修理にはもう一つの意味があった。

この本の主人公は二人いる。ミヒロと転校生のリサだ。リサは放課後、プールで泳ぐためにミヒロに見張りを頼む。ミヒロはほくと同じで意気地がないが、見張りを引き受ける。ほくだったら、自分からリスクを負うようなことはできなかったと思う。

リサの言葉に、人のために何かをするにはそれなりの覚悟がある、とある。これは正しいと思う。自分の意志や覚悟が無いと物事は成功しないと思うからだ。ミヒロはおじいちゃんに、見張りをした事について相談する。おじいちゃんは、リサの足の傷あとをからだの心の傷と言った。ほくは疑問に思った。なぜ足の傷なのに、心の傷と言うのだろう。読み進めるとその理由がわかった。足の傷はやけどが原因で、心の傷は足の傷に対する同級生達からのいじめが原因だった。リサほどではないが、ほくも似たような経験がある。ある日とつ然親友に裏切られ、一人ぼっちになった時に、一人だけ一緒に登下校してくれた友達がいた。ほくは、ありがたうと言えなかったけれど、とても心強かった。心の傷の方が治るまでに時間がかかる。心の傷を負わせるいじめは絶対にダメだという思いが強くなった。

ミヒロがおじいちゃんの家から帰る時にゲリラ豪雨に会い、トラックにひかれそうになって、リサに助けられる。この時のリサの行動に、ほくは「覚悟」を感じた。ミヒロを助けるために自分はずいぶん辛い思いも覚悟だ。友達のために自分の命も惜しま

ない行動に感心した。

おじいちゃんの言葉で心に強く残ったもの、それは、傷つけるのも人、なおしてくれるのも人、という言葉だ。だれにでも人を傷つけてしまう事はあると思う。しかし、傷つけてしまったあと、過ちに気づいて素直に行動に移せるか、ほくの友達のようにさりげなく登下校をいっしょにしてくれるような、自然に人に寄り添う事ができる人、そういう人こそが、心の修理屋、だと思ふ。修理には、物をなおすという意味と、前よりも強くするという意味もある。人は傷ついた事があって初めて、人の痛みもわかるようになる。

いくら傷ついても、人と人のつながりを切つてはいけないというおじいちゃんの言葉通りに行動する事はとても難しい。けれども、友達とは、たとえ意見が合わなくてけんかをする事があっても、そのあと素直に謝つて仲直りできる存在、悩み苦しんでいる時にアドバイスをしたり、時にはだまつて側にいてあげたりする存在だとほくは思う。

ほくは四月から、中学生というスタートラインに立つ。お互いに良い影響を与えられるような友人関係を築き、そして、新しく出会う誰かの「心の修理屋」になりたい。

(図書名「わたしの苦手なあの子」)

〈講評〉

「修理」という言葉をキーワードにして一貫性がある感想文です。自分の課題をもつて本を読み、作品の主題に迫る読み方ができていることが分かります。

祐生さんの文章には、作品の中の言葉を的確に押さえ、叙述を基にしな

がら、自分の考えをはつきりと主張する力強さがあります。この本から得た「人は、傷ついた事があって初めて、人の痛みもわかるようになる」という言葉は、これから祐生さんや読み手への道しるべになることでしよう。

審査を終えて

平成最後の冬も多くの作品が寄せられました。応募数は、低学年は百一点、中学年が五十一一点、高学年が二十九点、合計百八十一一点でした。昨年の冬に比べると、応募校も増え、県内各地で読書に取り組んだ皆さんがこのコンクールに応募してくれたことを、本当に嬉しく思います。

私たち審査員は、応募作品に一編一編目を通しては、その感性の豊かさや豊かな表現力に驚かされ、審査にも時間がかかりました。その中で話題になったことをお話しします。

【低学年】

読書を楽しんでくれたのだなあと感じられる作品が多かったです。物語の続きはどうなるのだろう、自分だったらこうするだろうな、という自由な発想を書き表しているところに好感が持てました。文章や言葉遣いも自然で、無理せず、飾ることなく書いているところがよかったです。感想文を書いているうちに、作品の細かいところに気づいたり、主人公に対する考えが変化していったりする様子も素直に書かれていました。

コンクールに出すからと言って、お利口にならずに書かなくてよいのです。自分の考えを自分の言葉で書く経験が大切なのだとは思っています。低学年の皆さんは、そういう経験を、一歩成長できたのではないのでしょうか。

ただ、低学年は他の学年より、制限字数が少なく、平仮名も多いので、一つひとつの言葉がとても大事です。最後まで思いと言葉を大切に、書ききってほしいと思いました。

【中学年】

中学年も読書を楽しんでくれた様子が見られました。まじめに物事をとらえようとしている姿勢やわからないことは親に聞こうという姿勢も素晴らしいと思います。低学年より長い文章を書かなければならず、大変だったと思いますが、構成が整っていて、文章のはじめと結びが呼応（きちんと繋がること）しているのは、さすがです。

残念だったのは、タイトルの付け方です。「〇〇を読んで」という漠然としたものより、自分が書きたいことを表すタイトルにすると、文章の途中でもタイトルに戻って、考えを整理することができると、読み手にも思いを伝えることができると思います。

【高学年】

高学年の読書は、楽しむだけでなく、自分の生活体験と結びつけて考える要素も多く出てくるのだと感じさせられました。作品中に残った言葉を引用したり、文学的な表現も多様に使われている部分もあり、今までに読んだり書いたりしてきた積み重ねが表れていたように思います。

惜しかったのは、物語のテーマと自分が重ねる生活体験の間に少しずれがあると感じられる作品が見られたことです。

例年より、誤字や脱字が少なく、丁寧に言葉が紡がれていることに感心しました。本を開いて、その本について書こうとしたその気持ちにも、敬意を表します。自分なりの読書をこれからも続けていってほしいと願ってやみません。

審査員 藤村 由美

たくさんのおうぼ
ご応募、ありがとう。
次も、お友だちをさそってトライしてね。



次回予告

2019年度夏休み良書推薦運動 第71回読書感想文コンクール募集要項

- 1 主催 岩手県良書推進協議会
- 2 協賛 岩手県学校生活協同組合
- 3 後援 ・岩手県小学校長会 ・岩手県学校図書館協議会
・(一社)岩手県PTA連合会
- 4 課題図書 2019年 「夏休み良書推薦運動」
学年・学団対象24冊・学年共通6冊 計30冊 (5月下旬案内開始予定)
※上記以外の図書、学団(低・中・高)ちがいの場合は、審査の対象となりません。
- 5 用紙・字数 ・1・2年生は400字詰め原稿用紙2枚以内
・3～6年生は400字詰め原稿用紙3枚以内
・1行目に題名、2行目に学校名・学年・氏名、3行目から本文
鉛筆は、B以上の濃さのもので書く。
・課題図書名は1枚目の枠外に縦書きで明記
- 6 応募作品 一人1点 (県下小学校児童)
応募作品は、オリジナルで自筆、未発表の物に限ります。
(他のコンクールとの二重応募は認めません)
・応募作品は、理由を問わず返却しません。(必要な場合はコピーをお取り下さい)
・応募作品の著作権、版權は主催者に帰属します。ただし、本人および在籍学校内での利用は妨げません。
・応募要項・課題図書名・前回までの上位入賞作品は学校生協ホームページで確認できます。
・応募された方の氏名・学校名・学年・感想文の題名・対象図書名および作品、表彰式の様子は、主催者および岩手県学校生活協同組合のホームページ、刊行物、取材報道等で公表することがあります。
- 7 応募締切 2019年8月30日(金)当日消印有効
- 8 応募先 〒020-0691 岩手県滝沢市土沢220-5
岩手県学校生活協同組合 企画課 学用品内
「読書感想文コンクール係」
TEL 019(687)2246 FAX 019(687)2240
- 9 賞 最優秀賞・岩手県小学校長会長賞・岩手県学校図書館協議会長賞・
岩手県PTA連合会長賞・優秀賞・入選・佳作・努力賞・
学校賞・学級賞

